

令和元年度「文化庁日本語教育大会・京都大会」 第3分科会

地域日本語教育が持つべき 関連分野の視座

～多文化共生マネージャーとして地域日本語教育に期待すること～

NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事
京丹後市国際交流協会 事務局長
麻田 友子
(kokusai_koryu@kyotango.net)

多文化共生マネージャーとは？

在住外国人に関わる諸制度や諸課題について理解を深め、多文化共生社会の進展に対応するための知識の習得、関係機関・部局等とのコーディネート能力および企画・立案能力の向上を図ることを目的として、自治体国際化協会と全国市町村国際文化研修所（JIAM）と共催で実施している研修を受講し、自治体国際化協会が認定した者。

通称：タブマネ

特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会とは

多文化共生マネージャーに認定された有志が集まって2009年に設立。多文化共生の推進にかかる研修や講演会を実施しているほか、各地の多文化共生マネージャーのネットワーク化を推進する事業等を実施。

(通称：NPOタブマネ)

<https://www.facebook.com/npotabumane/>



京丹後市多文化共生推進プラン策定(2018年3月)

◆第1次プラン (2015年3月策定) 3年計画

◆第2次プラン (2018年3月策定) 5年計画



IV プランの体系

基本目標	基本方針	施策
I 安心して生活 ができるまち	1 子育て・教育体制の充実	1-① 安心して子育てができる環境整備 1-② 子どもが安心して教育が受けられる環境整備
	2 就労環境の整備、新たな担い手の育成	2-① 就労支援の充実 2-② 外国人の能力を活かした地域産業の活性化
	3 健康で安心して暮らせる環境づくり	3-① 安心して受診できる環境の整備 3-② 保健・医療・福祉制度や日本の生活習慣等への理解促進
	4 災害に対する備えと、安心安全な生活環境の整備	4-① 災害時における情報伝達手段・支援体制の整備 4-② 防災意識の啓発 4-③ 防犯・交通安全の啓発
II 言葉の壁を 乗り越えるまち	5 日本語教育の充実	5-① 日本語教育の充実 5-② 日本語ボランティアの養成と連携強化
	6 多言語での情報提供・相談体制の充実	6-① 多言語での情報提供の充実 6-② 多言語での相談体制の充実
	7 外国語の学習機会の充実	7-① 外国語や多文化についての学習機会の充実
III フレンドシップ を育むまち	8 地域社会に対する意識啓発	8-① 多文化共生についての意識啓発 8-② 多文化共生に関わる人材育成
	9 外国人市民の自立と社会参画	9-① 外国人市民の社会参画の推進 9-② 外国人市民が社会参画できる環境の整備
IV 国際色豊かで にぎわうまち	10 京丹後市の魅力発信	10-① 観光情報の発信や京丹後市の魅力PR 10-② 外国人来訪者の受入体制の整備
	11 交流人口の増加	11-① 交流機会の提供
	12 他地域・他団体の連携・協力	12-① 他地域・他団体との各種分野での連携協力
		12-② 国際交流協会の機能充実

【アンケート結果】

日本人：回答率 36.9% (前回39.8%)

外国人：回答率 41.3% (前回28.5%)

Q 外国人との関わり

A 関わりがある→54% (前回16.3%)

Q 国際交流協会の知名度

A 知っている→22.8% (前回18.2%)

外国人市民アンケートの実施

外国人市民(16歳以上)にアンケートを実施 **回答率:41.3%**

Q: あなたは地域の日本人と どのような交流がしたいですか?

= **96.8%が、交流したい**

- ★ 日本語、日本文化の学習がしたい(38%)
- ★ 自分の国の文化や言葉を日本人へ教えたい(12%)
- ★ 地域の活動に参加したい(19%)
- ★ ボランティア活動を一緒にしたい(16%)

Q: 市はどのような取り組みに力を入れるべき?

- ★ 市からのお知らせ多言語化(15%)
- ★ 日本語や文化を学べる機会を増やす(27%)
- ★ 子育てや子どもサポートを増やす(8%)
- ★ 働けるところを増やす(13%)
- ★ 災害時、情報提供の多言語化(15%)
- ★ 外国人がまちづくりに参加しやすくする(19%)

外国人市民アンケートの実施

アンケート結果から、外国人のニーズをデータとして把握することで、必要な連携先、予算の確保などに活かす。

役割

《 具体化 》 「課題」⇒「現状把握・共有」⇒「事業化」

- ★ 日本語教室の充実に向け、ボランティア確保
- ★ 日本文化団体との連携
- ★ 母国についての発表の場を設ける
- ★ 地域のイベント情報・ボランティア情報を伝える

具体化のPOINT

注目性

共感性

必要性

実現可能性

参加性

ひとり一人の日本語教室 (2009年～)

学習の機会を均等に

生活環境・居住地域の違い、語学レベル・学習ニーズの違い・・・

不便な公共交通

子育て・仕事との両立

個々のレベルやニーズ

どんな環境でも
学習の機会を
提供できるように

→ 公共施設を無料で日本語教室の会場として使用させてもらう。

- ★ 学習者&日本語支援ボランティアが通しやすい地域で
- ★ ライフスタイルに合った、時間帯に
- ★ 学習者のレベルやニーズに沿った内容で

【課題】

指導者の質の確保

日本語教室をオープンに！

市広報・ニュースレターなどで、
学習者とボランティアを紹介

賑やかに日本語教室交流会
「日本語教室交流会」
◆日時：3月8日
◆場所：梅山地域公民館

日本語教室で学ぶ、フィリピン、タイ、ベトナム、中国出身の学習者20人とボランティア11人が集い、お好み焼きを食べて交流を深めました。

普段はボランティアと指導者が1対1で学習しているので、大勢の学習者が集まり、それぞれの学習方法や目標などを語り合ったり、「お好み焼き」を初めて食べた感想などを言い合ったりしていました。

市内に住んで約10年のタイ出身のニールンヌットさんは「日本語教室に通うまでは、外国人の友だちもいなかったけど、こうやって多くの友だちができて嬉しい！また、家にタイ料理を食べに来て！」と話していました。

＜日本語指導ボランティア募集中！＞

日本語教室で、日本語を指導して下さるボランティアを募集しています。日本語で教えるので、外国語ができなくても大丈夫です。興味のある方は、事務局へご連絡ください。

- ベトナム出身者（写真左）とタイ出身者（写真右）が音聲に合わせて、タイ語を覚えてくれました。
- 一部別家の人間士も多かったですが、すぐに打ち解けて、賑やかな交流会でした。

京丹後市の場合・・・

語学ができない人には、教えられない？
日本語教室のイメージが見えない。

役割

閉ざされた日本語教室にしない
＝ 多文化共生の地域づくり

企業・地域へ理解してもらい、就業や地域
への参画に繋げる

各種団体から依頼

公民館行事で母国の料理を紹介。地域運動
会にも参加。高校の授業で母国紹介など

ボランティアの確保

外国人を知ってもらう！

「多文化共生」重要性へのコンセンサス
とに、市民、議会、職員に周知徹底

「広報すること」
＝ 読み手に「行動させること」
“へえ。今度、〇〇してみようかなあ。”



行政

外国人の存在認識

市民へ外国人を見せる取組

広報紙に外国人を紹介！

地域団体

高齢者大学、高校、公民館などで「多文化共生」を
テーマに講演会を開催

ケーブルTV

多文化共生＝地域づくり
市民の理解が基礎となる

日ごろからの関係者の連携

1. 各地域の現状について

- 行政や関係団体の日本語教育への関心度
- 県内・市内国際化協会等との連携（国際交流協会やNPOなど）

2. 地域の外国人状況について

- 在留資格・年齢・性別など、どんな外国人が多いか
- 外国人コミュニティとのつながり

3. 地域課題と外国人市民の関わり

- 地域の“強み”と“弱み”
（例：強み・・・自然が豊か、人と人の繋がりが強い
弱み・・・都市部から遠い、高齢化）
- 外国人市民が地域と関わる場面
（例：子どものことで学校等、仕事など）
- 外国人市民に関わってもらいたいと思う場面
（例：インバウンド、災害時など）

日本語教育への期待



きぼう

持続可能な社会、安心安全なまちづくり、環境保全（農・林・漁など資源管理）、子どもへの投資

きもち

差別・偏見・社会的排除、パワハラ、セクハラ、いじめ、ひきこもり、DV、虐待、ネグレクトなど

基ぞ

基本的人権、生存権、勤労の権利、教育を受ける権利、学問・信仰の自由、社会保障（年金、介護・労働など各種保険）、言語保証

○誰もが社会の構成員として自覚できること

○誰もが個性を発揮できること

○自分と他人の存在価値を認めあえること

多文化共生マネージャーとしての役割

★ステークホルダーを見つける

→行政担当者、企業、ハローワーク、福祉関係など

★現状と課題を周りに見せる

→現状+可能性を示す

★参加と行動に繋げる

→ステークホルダーと協働をデザインする

★教室から地域への働きかけ・関わりの事例

→(例)地域のお祭りや防災訓練への参加等

ご清聴ありがとうございました

